

施策 2 - 1 地域医療の充実

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 市内外の医療機関との連携を強化するとともに、医療従事者を確保し、医療提供体制を維持・確保することで、誰もが安心して必要な医療サービスを受けられる環境を目指します。

<現状と課題>

- 本市では令和2年まで6つの医療機関がありましたが、現在は2つになっています。基幹病院である佐渡総合病院と、市立両津病院は、地域診療所や介護施設との役割分担をしながら、「さどひまわりネット」による医療と介護が連携した地域医療体制を構築していますが、今後、人口減少に伴う医療従事者の減少と高齢化の進行により、慢性疾患や在宅医療、回復期医療への需要は増加が見込まれており、医療提供体制の確保を一体的に取り組んでいく必要があります。
- 医師・看護師等の医療従事者不足は、地域医療を維持するうえで最重要課題の一つとなっています。本市では、看護職員奨学資金貸与制度や島外からの医療人材確保、研修受入れ等にも取り組んでいるものの、依然として医療人材の確保は厳しい状況にあり、課題把握と人材確保と育成を重点的に取り組む必要があります。
- 医師の高齢化や後継者不足により、地域医療を担う診療所の診療継続が困難となるケースが見られ、住民の医療アクセス確保が課題となっています。佐渡市は広域で集落が分散している地理的特性を有しており、移動手段の確保が難しい高齢者などに対する医療へのアクセスを確保する必要があります。

<関連計画等>

- 新潟県地域保健医療計画
- 新潟県地域医療構想
- 新潟県医師確保計画

< 施策の展開 >

1. 医療体制の維持・連携推進

主な取り組み	■佐渡圏域内の医療のあるべき姿を検討し、医療提供体制の最適化を図ります。 ■さどひまわりネットを活用した医療・介護・福祉の連携体制を強化します。 ■新潟県、関係医療機関との連携を強化します。		
主な事業	地域医療構想調整会議、佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会、病院運営・整備補助事業		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	さどひまわりネット加入率	36.9%	50.0%

2. 医療従事者確保対策の推進

主な取り組み	■医療人材の養成及び確保、育成のための資格取得に資する環境や補助事業を整備、活用し継続的かつ重点的に取り組みます。 ■行政、医療機関、関係団体が連携し、医療職の勤務負担軽減、環境改善を推進し総合的な人材確保・定着を図ります。		
主な事業	医療人材育成及び確保事業、看護師緊急確保事業補助事業、看護職員奨学資金貸与事業		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	奨学資金貸与制度看護師の市内就職率	66.7%	80.0%

3. へき地医療の維持

主な取り組み	■市立病院・診療所は「地域のかかりつけ医」としての医療機能を担い、無医地区や通院困難者のための巡回診療等を継続します。 ■医療・介護連携や情報通信技術 (ICT) の活用や医療分野のデジタル化を推進し、地域で市民が安心して医療を受けられる体制を整備します。		
主な事業	市立診療所運営及び公的診療所運営補助事業、巡回・訪問診療及びオンライン診療等整備事業、地域交通・地域の拠点施設等連携事業		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	市内診療所数	50 箇所	50 箇所

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行 政
■夜間の不要不急な受診を控えるなど、医療機関の適切な利用を心がけましょう。	■公立・公的病院、診療所、福祉施設等の役割分担及び連携による医療提供体制の維持、官民一体となった人材確保や提供環境の改善に努めましょう。	■市民が安心して暮らせるよう、地域医療体制の確立と救急医療体制の維持、確保に努めます。

【参考情報】 施策 2- 1 地域医療の充実

■前期計画 KPI

さどひまわりネット加入率	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	31.5%	35.0%	34.2%	35.6%	36.9%	39.0%
取組内容と取組結果(R7)	佐渡市の健康課題と対策を市民に知ってもらい考えてもらえるよう、あらゆる機会を通じて普及啓発を行った。昨年度は特に職域における健康教育を重点に取り組んだ。「カラダに優しい野菜と塩」のキャッチコピーでの取り組みを開始した。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	肥満の割合は昨年度より減少した。男女共に減少（男性:34.1→33.6、女性:26.5→25.6）となった。対象者に対して個別に保健指導を実施した。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	カラダにやさしおをキャッチコピーに、食だけでなく運動習慣の定着を家族や職場など地域全体で取り組む動機づけや意識が必要となる。					
医療技術者奨学資金貸与 看護師の市内就職率	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	55.6%	80.0%	25.0%	58.8%	43.1%	66.7%
取組内容と取組結果(R7)	看護職（医療技術者）に特化した奨学資金貸与。 R7 貸与者 41 名（うち看護職 33 名）					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	年々市内病院等への就職を選択しない方や市外就職が増えているが、R7 に関しては貸与者に対して市内就職の比率が上がった。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	看護職（医療技術者）を目指す学生への奨学資金貸与をきっかけに市内就職率の向上に努める。					
市立病院の巡回診療地区数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	2 地区	2 地区	2 地区	2 地区	2 地区	2 地区
取組内容と取組結果(R7)	無医地区、準無医地区に準じる 2 地区に年 70 回実施。 巡回診療延患者数 247 名					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	人口減少の影響を受け、患者数は減少しているが、今後も遠方で通院が困難な方に対し医療を提供する必要がある。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	無医地区、準無医地区の 2 地区で年 70 回実施する。					

■市民アンケート結果

健康づくり・保健・医療の充実	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
	77.6%	82.8%	26.2%	28.9%

■前期計画からの主な見直し内容

- 現状にあわせて、医療提供体制や医療人材の確保などの記載を修正
- 施策の展開３について、成果指標を「市立病院の巡回診療地区数」から「市内診療所数（※診療所＝病床のない医療機関（医院））」に変更。

施策 2 - 2 健康づくりの推進

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 市民の健康寿命を延伸するため、子どもから高齢者まですべての人の健やかな生活習慣の形成、疾病予防と生活習慣病の重症化予防 およびフレイル予防に重点を置いた健康づくりを推進します。
- また、この取組を幼児期・学童期から高齢期まで継続的に展開するため、学校教育、食育、スポーツ、生涯学習、文化活動を有機的に連携させ、健康習慣づくりと社会参加を推進します。

<現状と課題>

- 本市の健康課題は、患者全体の約 5 割を占める高血圧性疾患と、約 4 割の糖尿病です。これらが重症化して慢性腎臓病（CKD）へ移行するケースも多く、背景には全世代にわたる「肥満」があり、特定健診では受診者の約 3 割がメタボリックシンドロームに該当し、40 歳代でも約 2 割が積極的支援の対象で、職域健診でも同様の傾向が見られます。
- 各世代共通の健康課題である肥満予防及び改善のため、市民の生活習慣病予防と重症化予防に対する関心を高める働きかけを市全体で推進するとともに、減塩と運動習慣の定着を目指し、子どもの頃から朝食摂取、睡眠、運動、適切な情報機器利用等の生活習慣を身に付けられるよう、学校・家庭・地域が連携した取組を推進する必要があります。
- フレイルには「可逆性」という特性があり、自分の状態と向き合い予防に取り組むことでその進行を緩やかにし、健康に過ごせていた状態に戻すことができると言われています。本市においても、高齢になってからではなく、働く世代からの食事、運動、口腔、社会とのつながり等を意識して生活習慣の改善に取り組み、適切な支援により要支援や要介護の状態から自分のしたいことができる状態に改善する取り組みが必要です。
- 本市の自殺死亡率は減少傾向にありますが、全国及び新潟県を上回っている状況です。自殺未遂者は、再企図の恐れがあり自殺のリスクが高いといわれており、本市では自殺者の約 2 割に自殺未遂歴がある状況です。自殺未遂者が再び自殺に追い込まれることがないよう、関係機関と連携し適切な支援につなげていきます。

< 関連計画等 >

- 健幸さと 21 第 3 次計画
- 第 2 次佐渡市自殺対策計画
- 佐渡市国民健康保険第 3 期データヘルス計画及び第 4 期特定健康診査等実施計画
- 地産地消計画
- 生涯学習計画
- スポーツ推進計画
- 障害児者福祉計画
- 佐渡市こども計画

< 施策の展開 >

1. 食と運動で支える健康づくりの取組

主な取り組み	■食で支える健康づくりとして、職域や保育園、学校と連携を図り、「カラダにやさしお」の周知・普及啓発に取り組んでいきます。 ■運動で支える健康づくりとし、社会教育事業と連携を図り、職域での運動習慣の定着などから、市民の健康増進と健康寿命の延伸につなげます。		
主な事業	やさしお給食、やさしおの日、保育園での幼児期運動基盤事業、ラジオ体操、健康っぽいんと事業、妊娠おめでとう米、ファーストおかゆ、健康フェスティバル		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	肥満 (BMI 25 以上) に該当する人の割合 (40～60 歳代：男性)	35.1%	31.7%
	肥満 (BMI 25 以上) に該当する人の割合 (40～60 歳代：女性)	26.0%	18.5%
	減塩に取り組んでいるものの割合 (健診受診者：19 歳以上)	70.0%	73.4%
	1 日 30 分以上の軽く汗をかく運動を週 2 日以上、1 年以上実施している者の割合 (40～74 歳)	30.5% (R 6)	35.0%
	特定保健指導終了者の腹位 2 cm、体重 2 kg 減達成割合	18.6% (R 6)	20.0%

2. 生活習慣病予防と重症化予防

主な取り組み	■国保・特定健診受診者で、高血圧症、糖尿病の重症化が心配される方に、継続した受診勧奨と効果的な保健指導を実施します。 ■市民全体へのアプローチとして庁内で連携し、食生活の改善と運動習慣の定着を図ります。		
主な事業	特定健診受診率向上事業、特定保健指導、生活習慣病重症化予防事業、CKD 対策事業、職場におけるがん検診の受診率向上事業		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	特定健診受診率 (40～50代)	43.7% (R 6)	46.0%
	特定保健指導該当率	12.0% (R 6)	11.3%
	朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している割合	77.8% (R 6)	76.8%

3. フレイル予防

主な取り組み	■フレイル予防の普及啓発に取り組んでいきます。 ■生活習慣の改善を通じて、心身の両面から健康を保持することで生活機能の維持向上を図ります。		
主な事業	通所型サービス・活動 C による運動機能向上支援、健康学習会、フレイル相談、高齢者の実態把握事業、保健事業と介護予防の一体的実施		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	高齢者の生活の満足度 (満足・やや満足)	67.5%	70.0%
	新規要支援・要介護認定者の平均年齢	83.5 歳 (R 6)	基準値を維持
	食事をかんで食べる食べるときの状態 何でもかんで食べることができる割合	75.5% (R 6)	77.5%

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行 政
■減塩や運動習慣の定着を目指して取り組みましょう。 ■自分の身体を知るため、基本健診やがん検診、人間ドックを受けましょう。	■職域との連携を図り、健診・がん検診の受診と、健康づくり活動に取り組みましょう。	■健康課題を分析研究し、市民への情報発信をするとともに各種健康づくり事業を実施します。

【参考情報】 施策 2-2 健康づくりの推進

■前期計画 KPI

しまびと元気応援団参加数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	4,299 人	8,000 人	9,135 人	11,741 人	5,446 人	7,367
取組内容と取組結果(R7)	健康フェスティバルへの参加やしまびと 20 周年を祝う会で健幸さど 21 に貢献。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	参加者数の実績は増加した。グループ数の減少や活動の衰退が見受けられる中、新規親子 G の活動が目立った。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	企画書や実績の報告が負担なのか未提出 G が多い。健康フェスティバルの参加に加え、「カラダにやさしお」を推進するポピュレーションアプローチを団員全体で行う。					
健康推進員数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	401 人	420 人	379 人	353 人	346 人	329 人
取組内容と取組結果(R7)	健幸推進員養成講座修了生 18 名であり会員数は横ばいである。佐渡市の健康課題がわかり、健康寿命日本一を意識した活動を実施。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	会員数は横ばいであるが、人口減少する中、会員数を維持することができた。活動数総数は減少しているが、対話での活動数は増加。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	養成講座を受講しやすい方法を検討。人口減少、高齢化、会員数減少に伴い支部間の交流や統廃合を見据える必要がある。					
肥満 (BMI 25 以上) に該当する人の割合	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	30.0%	25.0%以下	29.8%	29.9%	30.5%	29.7%
取組内容と取組結果(R7)	佐渡市の健康課題と対策を市民に知ってもらい考えてもらえるよう、あらゆる機会を通じて普及啓発を行った。昨年度は特に職域における健康教育を重点に取り組んだ。「カラダに優しい野菜と塩」のキャッチコピーでの取り組みを開始した。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	肥満の割合は昨年度より減少した。男女共に減少 (男性:34.1→33.6、女性:26.5→25.6) となった。対象者に対して個別に保健指導を実施した。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	カラダにやさしおをキャッチコピーに、食だけでなく運動習慣の定着を家族や職場など地域全体で取り組む動機づけや意識が必要となる。					

	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
身体活動を 1 日 1 時間以上実施する住民の割合	81.0%	85.0%	76.2%	78.9%	81.3%	74.0 (KDB 地域の全体像)
取組内容と取組結果(R7)	保健指導対象者に対して個別指導を実施し身体活動と運動の定着について目標を設定して取り組んだ。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	身体活動の割合は昨年度より減少した。運動習慣や体を動かす割合が増加するための意識づけを図る取り組みが必要。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	カラダにやさしおをキャッチコピーに、食だけでなく運動習慣の定着を家族や職場など地域全体で取り組む動機づけや意識が必要となる。 健幸ばいんと連携課と対策を図っていく。					
	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
未治療者（糖尿病・高血圧症）の割合	19.6%	18.0%	22.7%	26.1%	23.9%	最新データ なし (法定報告が 10 月のため)
取組内容と取組結果(R7)	受診が必要な対象者に対して、個別に保健指導を実施し受診勧奨を行った。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	(最新データがないため評価ができない) 法定報告 10 月予定					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	糖尿病・高血圧が重症化しないために、治療継続の必要性を啓発する。過去の保健指導対象者を整理し治療中断者や未受診者を把握して支援を実施する。					

■市民アンケート結果

	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
健康づくり・保健・医療の充実	77.6%	82.8%	26.2%	28.9%
いじめ・自殺対策の推進	67.7%	67.4%	9.6%	12.6%

■前期計画からの主な見直し内容

- 現状に合わせて施策の展開を見直しし、「食と運動で支える健康づくり」や「フレイル予防」を新たな項目として記載。生活習慣病予防についても、データ集約、分析等により成果指標を変更。
- 成果指標については各施策において複数設定し、重層的に評価を行う。

施策 2 - 3 高齢者福祉・介護の充実

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 高齢者が住み慣れた地域でいきいきとした生活を続けられるよう、高齢者の健康づくりや介護予防に取り組むとともに、様々な福祉サービスを提供し、家族・仲間・地域がつながり、共に支え合う体制を強化するなど、地域包括ケアシステムの充実を推進します。

<現状と課題>

- 令和 8 年 4 月現在の本市の高齢化率（65 歳以上）は 43.9%に達し、要支援・要介護認定者数は 4,136 人となっています。総人口が減少するなか、高齢者人口も減少していますが、若年層の減少に比べ比較的緩やかであることから相対的に高齢化が進行している状況です。また、要介護 2 以上の介護認定率は 11.1%で令和 2 年度に推計した 14.5%を大きく下回っており、健康づくりと介護予防の取組を継続して実施し、元気な高齢者を増やしていくとともに、要介護認定者にあっては、必要なサービスが一体的に提供されることで、その状態を維持・改善していく必要があります。
- 高齢者人口や要介護認定者数は今後ますます減少する見込みであり、福祉サービスの持続可能な提供体制の維持・確保に向けた議論が必要となってきます。また、介護サービス事業所が事業展開するうえでの課題として、介護人材不足や介護職員の高年齢化があげられます。
- 高齢者が生きがいをもって暮らすことができるよう、高齢者がもつ経験や知識を活かして活躍できる就業環境づくりや老人クラブ活動等の参加機会を充実させる必要があります。
- 過疎化や核家族化とあいまって高齢者のみ世帯の占める割合が 42.7%と増加していることから、高齢者世帯の見守り強化や買物や移動、ごみ捨て等の在宅の日常生活を支える支援体制の整備が求められます。
- 令和 7 年度在宅介護実態調査において、「日中・夜間の排泄、認知症への対応」が介護者が不安に感じる介護としてあげられています。また、「老老介護」や「独居高齢者」等の割合が増加することで、在宅の介護力が低下しているため、在宅で安心して暮らせるよう、認知症施策の推進のほか、介護及び生活支援等のサービス量を維持・継続していく必要があります。

< 関連計画等 >

■ 佐渡市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画

< 施策の展開 >

1. 健康づくりと介護予防の推進

主な取り組み	■保健事業と介護予防事業を一体的に実施することで、高齢者の健康状態の維持・改善・重症化の予防を推進します。 ■生活習慣病予防や高齢期の望ましい食生活を啓発し、地域や関係団体と一体的な高齢者の食育・低栄養予防対策を推進します。		
主な事業	健康づくり、健康診査・保健指導、歯科保健対策、食育と栄養対策		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	要介護認定率（要介護 2 以上）	11.0%	10.0%

2. 高齢者の生きがいある暮らしの推進

主な取り組み	■高齢者の豊かな経験と知識・技術等を活かして地域社会で活躍できる仕組みづくりを推進し、生きがいを感じる元気な高齢者の増加に努めます。 ■高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう関係機関と連携しながら支援し、また、在宅で介護をしている方の身体的・精神的・経済的負担の軽減を図ります。		
主な事業	社会参加を促進する地域づくりの推進、高齢者生活支援事業、家族介護支援事業		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	生活の満足度	67.5%	70.0%

3. 医療・介護・福祉が一体的に提供されている地域包括ケアシステムの推進

主な取り組み	■高齢者のニーズや状態の変化に応じたサービスや、サービス需要が減少するなかでも、必要な介護サービスが提供される体制整備を図ります。 ■佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会において、医療・介護・福祉のさらなる連携を推進するとともに、市内の介護等に係る人材の確保・育成や人材不足対策を進めていきます。 ■認知症施策の推進のほか、介護及び生活支援等のサービス量を維持・継続していくことで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域づくりを推進します。		
主な事業	介護保険サービス（居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービス）、介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業（在宅医療・介護連携推進事業・生活支援体制整備事業・認知症総合支援事業・地域ケア会議推進事業）		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	佐渡市の取組に対する満足度「高齢者・障がい者福祉の充実」（不満・やや不満の割合）	29.6%	25.0%

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行 政
■介護予防、地域行事などの健康づくりや生きがい、助け合いの社会活動に積極的に参加しましょう。	■専門性を活かし、協働によってサービスの改善と多様化、複合化する地域課題の解決に取り組みましょう。	■住まい・医療・介護・介護予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進します。

【参考情報】 施策 2-3 高齢者福祉・介護の充実

■ 前期計画 KPI

要介護認定率(要介護2以上)	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	13.9%	14.0%	11.6%	11.2%	11.0%	11.1%
取組内容と取組結果(R7)	高齢者が介護予防に向けた取組を主体的に行えるよう、市内各地で各種教室を実施し、参加者へ健幸ポイントを付与したことで、参加のきっかけを促し、活動の継続につながった。あわせて、介護予防の観点から支援が必要になり得る人を早期に把握できた。また、新潟県の介護予防アドバイザー派遣事業により通所型サービス・活動Cの強化を図った。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	介護予防等の取組みにより介護認定更新時に要支援認定等に移行される方が増加した。今後後期高齢者が増加することから介護予防の取組みを強化していく。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	介護予防等の取組を継続して実施。また、新潟県の介護予防アドバイザー派遣事業を継続して行い、通所型サービス・活動Cの更なる強化を図る。					
高齢者実態調査による生きがいがあると回答した高齢者の割合	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	59.5%	65.0%	58.0%	-	-	67.5%
取組内容と取組結果(R7)	「高齢者いきいきお出かけ応援事業」を実施。56 団体、1,055 人が利用している。また、常設の居場所を設置し、子供から高齢者まで誰でも参加できるごちゃまぜの居場所づくりを進め、新たな社会参加の場の創出に努めている。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	コロナ禍が収束し、家族や友人への面会制限がなくなったことで、交流や社会参加が増加したことが増加の一因と考えられる。生きがいを感じる要因は引き続き分散傾向にあるため、生きがいが多様化していく中で、様々な社会参加の機会を創出する対策について検討していく。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	R7 年度までの取組を継続していくとともに、常設型の居場所づくりなど様々な社会参加の機会を創出していく。					
認知症サポーター養成講座受講者数 (累計)	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	8,477 人	10,000 人	9,088 人 (年度内受講者 366 人)	9,421 人 (年度内受講者 333 人)	9,713 人 (年度内受講者 292 人)	9,986 人 (年度内受講者 273 人)
取組内容と取組結果(R7)	認知症サポーター養成講座を 25 回実施。 出前講座 21 回 定期開催 4 回					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	出前講座を中心に行い、企業・高齢者サロン・地域の茶の間等から受講してもらうことができた。定期開催では、昨年度と同じで受講者が少なく望む成果が得られなかった。開催場所や時間等を工夫しより多くの人に参加してもらい、新しい認知症観について多くの方から理解してもらうよう働きかける。					

今後の方針と R8 取組内容（予定）	出前講座を継続して実施する。SNS や市報を活用し、若年層のサポーターを増やす取り組みを進めていく。中学生の受講実績が数年ないため、幅広い世代から受講してもらえるように周知を行う。
--------------------	--

■市民アンケート結果

高齢者・障がい者福祉の充実	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
	78.9%	80.1%	25.3%	25.7%

■前期計画からの主な見直し内容

● 前期計画においては介護認定率が上昇し、介護ニーズがこれからも増加し続ける書きぶりとなっていたが、この5年間の推移をみると介護認定率は推計を大きく下回ったことに加え、高齢者人口も減少当初の推計に比べ大きくなっていることから、福祉サービスの充実を図っていくことよりも、サービスの持続性や維持・確保に向けた対策の充実に向けて記載を見直し。 ● 施策の展開2について、成果指標を「高齢者実態調査による生きがいがあると回答した高齢者の割合」から「生活の満足度」に変更。 ● 施策の展開3について、成果指標を「認知症サポーター養成講座受講者数」から「佐渡市の取組に対する満足度「高齢者・障がい者福祉の充実」(不満・やや不満の割合)」に変更。
--

施策 2-4 子育て支援の充実

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 家庭や地域が伴走して切れ目なく支援し、経済的負担の軽減や相談、安心して預けることができる環境を整えることにより孤立を防ぎ、子育て世帯の満足度向上を目指します。
- 結婚への取り組みを支援するとともに、妊娠期から出産、自立までの成長に対応した切れ目ない支援を通じて、安心して産み育てられる環境の整備を進めます。

<現状と課題>

- 人口移動調査による本市の出生数は、令和3年度の236人から令和7年度は144人に減少しています。未婚・晩婚化などの影響もあり、少子化の流れはより顕著となっています。
- 経済的負担の軽減や相談体制の強化、身近な居場所づくりなど、妊娠から自立までの切れ目ない支援を進め、地域全体で子育てを支える気運を高める必要があります。
- 職場環境の改善を企業等へ働きかけるとともに、ニーズの高い放課後児童クラブの受入体制拡充や、安心して子どもを預けられる病児保育等の環境整備が求められています。
- 子育て支援に関する情報提供、相談体制の充実が求められています。
- 障がいをもつ子どもや経済的問題を抱える家庭の子どもなど、配慮を必要とする子どもや家庭への支援体制の充実が求められています。子どもを取り巻く環境は複雑化、多様化しており、子ども若者相談センターへの児童家庭相談の件数は、令和3年度の258件から令和7年度には462件に増加しています。
- 結婚も子育てと同様に社会全体の問題と捉え、市民が一体となり積極的に支援する必要があります。

<関連計画等>

- 佐渡市こども計画

<施策の展開>

1. 結婚・出産・子育てが安心してできる環境の充実

主な取り組み	■妊娠期から出産、自立までの成長に即した経済的な支援を行い、安心して子育てができる環境を整えます。 ■地域における育児の相互援助を推進することで、子育て世帯の仕事と子育ての両立を支援します。 ■共働きやひとり親家庭などの子どもが、楽しく有意義に過ごせる放課後の生活の場を提供します。 ■妊産婦の健康や乳幼児の成長・発達のため、それぞれの時期に対応した切れ目ない支援をします。 ■結婚や子育てに夢や希望を持つことのできる環境づくりに努め、結婚を望む人の希望が叶うよう、結婚につながる支援の充実を図ります。		
主な事業	子育て支援サービスの充実、妊産婦・新生児の 訪問指導や乳幼児健康診査の際の育児相談、出会いの場創出事業		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	佐渡市における子育ての環境や支援への満足度 (満足度3～5の割合)	未就学前保護者 59.0% 小学生保護者 55.0% (R6)	未就学前保護者 66.0% 小学生保護者 62.0%
	出生数	144 人	103 人
	婚姻率	2.2%	3.1%

2. 子育て支援拠点の充実

主な取り組み	■複雑化・多様化する子育て世帯のニーズにきめ細かく対応するため、子育て交流ひろばを親子が安心して過ごせる場であるとともに、専門スタッフへ気軽に相談でき、必要な子育て支援につながる拠点として機能の充実を図ります。 ■隣接する佐和田児童クラブ遊戯室を一体的に活用するほか、子育て世代のニーズを把握した上で、屋内外の子どもの遊び場、居場所づくりに取り組みます。		
主な事業	子育て交流ひろば事業、地域子育て支援センター運営事業、公園整備事業		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	子育て交流ひろば利用者満足度	—	未就学前保護者 70.0% 小学生保護者 70.0%

3. 配慮を必要とする子ども・家庭への支援

主な取り組み	■配慮を必要とする子どもや家庭が安心して相談でき、適切な支援につながるよう、相談体制の充実を図るとともに、関係機関との連携を強化し、支援の中核として切れ目のない支援体制づくりを進めます。 ■教育・福祉・保健等のデータを活用し、潜在的に支援を必要とする子どもを早期に把握するとともに、一人ひとりの状況に応じて、安心して過ごせる居場所の提供や必要な支援につなげます。		
主な事業	子ども若者相談事業、こどもデータ連携事業、児童育成支援拠点事業		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	子ども若者相談センターを子育て支援施策として評価できると回答した子育て世帯の割合	未就学前保護者 49.0% 小学生保護者 50.3% (R6)	未就学前保護者 56.0% 小学生保護者 58.0%

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行政
■地域全体で子どもや子育て家庭を見守るとともに、子育て支援活動や地域活動に参加し、安心して子育てできる地域づくりに取り組みましょう。 ■マタニティセミナーや妊産婦訪問指導を受けましょう。	■子育て家庭が仕事と子育てを両立できる職場環境の整備に努めるとともに、地域や行政と連携した子育て支援に協力しましょう。	■子育てに関する情報提供や相談支援の充実を図るとともに、関係機関や地域、事業者と連携し、子どもや家庭の状況に応じた切れ目のない支援体制を整備します。 ■妊娠期からの伴走型支援を取り組み、育児不安の軽減や相談しやすい体制を整備します。

【参考情報】 施策 2-4 子育て支援の充実

■ 前期計画 KPI

ファミリーサポートセンター登録会員数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	121 人	140 人	176 人	196 人	182 人	194 人
取組内容と取組結果(R7)	引き続き、赤ちゃん訪問時やイベント等でファミリーサポートセンターについての情報発信を実施した。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	赤ちゃん訪問時等に保健師や助産師から制度の周知を図ってもらうことで、「何かの時のお守りに」登録する依頼会員が多いが、多くは利用には至っていない。 毎年、依頼会員は増加しているが、提供会員の新規登録が少ないため、提供会員を増やすための PR を増やしていきたい。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	引き続き、赤ちゃん訪問時やイベント時にファミリーサポートセンターの情報発信を行うことで、困っている人に制度が届くよう努める。 また、依頼に対して安定したサービス提供を行えるよう、提供会員の獲得について力を入れる。					
子育て支援センター利用者数（累計）	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	15,423 人	19,900 人	12,862 人	13,459 人	16,331 人	16,877 人
取組内容と取組結果(R7)	金～日曜開設の民間の子育て支援センターが開所したことにより、週末の利用者が増加した。乳児健診でも積極的な PR を行い、新規利用者の獲得につながっている。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	出生数が減少する中、子育て支援センターの利用者は増加していることから、週末の遊び場や気軽に相談ができる機関のニーズが伺える。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	さわた図書館・子育て交流ひろばのオープンに合わせて、さわた子育て支援センターの連携した運営が求められる。引き続き各種媒体を使って積極的に PR を行うことにより、気軽に親子が集える場、相談できる場の提供を行っていきたい。					
子ども若者相談支援センターの施策評価割合	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	就学前 39.9% 小学生 41.0%	就学前・小学生と共に 50.0%以上	—	—	就学前 49.0% 小学生 50.3%	—
取組内容と取組結果(R7)	令和 7 年度は、専門職による相談支援の充実、児童発達支援の強化、子育て応援事業の実施、地域の関係機関との連携促進に取り組んだ。その結果、相談者の満足度向上、児童発達支援の効果向上、早期対応の実現、関係機関からの紹介も含めセンター利用者数の増加も見られた。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	R6 年度実施のニーズ調査では就学前児童の保護者には目標未達 49%、小学生の保護者には 50.3%と目標値は上回っている。学校や教育委員会との連携による早期相談体制の浸透が要因と思われる。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	教育委員会部局への組織改編によりより一層の関係機関連携が拡充できるため、引き続き相談支援の質向上を目指し、丁寧な初期対応とアウトリーチ型の支援を行う。					

■市民アンケート結果

	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
教育・子育て支援の充実	75.3%	71.5%	24.7%	24.7%
延長保育や病後児保育の充実	65.4%	65.0%	20.4%	21.5%
子育て世代の交流の場づくり	56.7%	54.8%	13.5%	16.6%
少子化対策の推進	75.6%	76.5%	8.9%	10.4%
男女の出会いの場の創出	57.9%	60.0%	6.1%	6.9%

■前期計画からの主な見直し内容

- 結婚や妊娠、出産への支援を含めた記載に変更。
- 子育て支援体制について、子育て交流ひろばに関する記載を中心に修正し、屋内外の子どもの遊び場、居場所づくり等について追記。
- 施策の展開1について、成果指標を「ファミリーサポートセンター登録会員数」から「佐渡市の取組に対する満足度「高齢者・障がい者福祉の充実」(不満・やや不満の割合)」「出生数」「婚姻数」に変更。
- 施策の展開2について、成果指標を「子育て支援センター利用者数(累計)」から「子育て交流ひろば利用者満足度」に変更。
- 施策の展開3について、成果指標は変更しないが、市民に分かりやすい表現に変更。

施策 2 - 5 障がい者福祉の充実

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 障がいへの理解と配慮をもつとともに、ライフステージを通じた総合的な支援体制を整備することにより、障がい者と共生し、障がい者が安心して生活できる社会を目指します。

<現状と課題>

- 少子高齢化や核家族化の進行、人口減少、地域のつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境の変化により、障がい福祉にかかるニーズは多様化・複雑化しており、今後ますますサービスの提供体制や相談支援体制の充実が必要となっています。一方で、障がい福祉サービスを提供する事業所の人材不足が大きな課題となっています。公的サービスとそれ以外のさまざまな支援を組み合わせた総合的なサービス提供の仕組みづくりが必要です。
- 障がい者への理解は徐々に進んでいるものの、障がい特性や必要な配慮に対する理解は十分とはいえません。障がい者への理解促進と合理的配慮の普及を進め、障がいの有無にかかわらず、誰もが地域で安心して暮らし支え合う共生社会の実現を目指します。
- 就労意欲のある障がい者が、その適性に応じて能力を十分に発揮しながら就労するためには、一般就労や福祉的就労を含めた多様な就労形態の整備が必要です。令和 7 年度時点では福祉施設から一般就労へ移行した者は 4 人と少なく、また就職後の職場定着にも課題があります。就労は、障がい者の経済的自立のための重要な柱であり、生きがいや社会参加にもつながります。関係機関が連携を強化し、助成制度活用や就労訓練等も含め、総合的に支援する必要があります。

<関連計画等>

- 第 4 次佐渡市障がい者計画
- 第 7 期佐渡市障がい福祉計画
- 第 3 期佐渡市障がい児福祉計画

< 施策の展開 >

1. 障がい者が安心して生活できる仕組みづくり

主な取り組み	■障がい者の日常生活や社会参加への支援のため、相談支援体制の充実を図り、必要な各種制度やサービスの周知に努めます。 ■地域のニーズを把握し、必要なサービスの整備を進めます。 ■精神科医療機関等の関係機関と連携し、精神障がい者の特性に応じて、円滑に地域移行ができるよう環境づくりに努めます。		
主な事業	基幹相談支援センターと相談支援事業所等が連携し、研修会や事例検討を通じての相談支援体制の強化、市報やホームページにおける障がい福祉サービス情報発信、医療機関を含めた関係機関との地域移行にかかる協議の場、介護・福祉の人材育成及び確保事業補助金による助成		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	「生活上で特に困っていることはない」と答えた人の割合	18 歳未満 45.3% 18 歳～64 歳 49.0%	18 歳未満 50% 18 歳～64 歳 50%

2. 権利擁護の推進

主な取り組み	■各種イベントや研修会、情報発信等を通じて、障がいに対する正しい理解の普及に努めます。 ■障がい者が地域で安心して生活できるよう、障がい者やその家族の権利擁護に取り組むとともに、差別解消や虐待防止に向けた周知活動を推進します。 ■障がい者などに配慮したバリアフリーの推進や、障がい者や団体への手話通訳者・要約筆記者の派遣など、障がいの特性に応じた適切な支援に努めます。		
主な事業	市報やホームページにおける情報発信、各種イベントや研修会等の活動支援、障害者週間に合わせた啓発イベントの開催、成年後見制度の利用促進（成年後見セミナーの開催、成年後見制度利用支援事業による助成）、手話奉仕員の養成、手話通訳者・要約筆記者等の派遣		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	手話奉仕員の登録者数	28 人	50 人

3. 就労支援への取組の強化

主な取り組み	■障がい者がその適性に応じて、能力を十分に発揮することができるよう、関係機関並びに受入れ企業との連携を図ります。 ■販路拡大や受注機会の確保などを通じて工賃向上を支援します。 ■就労移行支援などの障害福祉サービスの充実を図るとともに、関係機関と連携し、一般就労への移行を支援します。		
主な事業	職場定着への支援、企業への障がい理解推進、授産品の販路拡大、障害者職場実習促進事業		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	福祉施設から一般就労への移行者数	4 人	6 人

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行 政
■障がいや障がい者への理解を深めましょう。	■サービス提供体制の充実や関係事業所等との連携を図りましょう。	■各行政機関との連携を強化し、計画に基づいた支援施策を推進します。

【参考情報】 施策 2-5 障がい者福祉の充実

■ 前期計画 KPI

福祉施設から一般就労への移行者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	10 人	15 人	1 人	11 人	2 人	4 人
取組内容と取組結果(R7)	障がい者就業・生活支援センターあてびや福祉施設、ハローワーク等の関係機関が連携し、障がい者の希望に寄り添った支援を行うとともに、セミナーの開催や職場実習の取組を拡充し、企業等に対する働きかけを行った。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	昨年度から 2 人増え、取組の継続により一定の進捗がみられている。また、職場実習の拡大により、さらなる企業への障がいの理解促進や就労促進につながっている。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	引き続き、関係機関と連携し障がいの特性に合わせた支援を行うとともに、セミナーや体験実習等を通して障がいの理解や就労促進に向けて企業にはたらきかけていく。					
手話通訳者・要約筆記者派遣人数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	52 人	55 人	61 人	80 人	64 人	50 人
取組内容と取組結果(R7)	個人の病院受診や学校行事、講演会参加のほか、イベント等、さまざまな場面において派遣を行った。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	島内の意思疎通支援者が限られているため、デジタル技術や筆談などで対応する方も増え、派遣人数は減少したものの、希望者にはほぼ派遣できた。今後は意思疎通支援者の確保やオンライン、デジタル技術等を活用した支援体制づくりが必要である。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	引き続き希望者に派遣を行うとともに、養成講座等々の開催及び意思疎通にかかる周知啓発を行うとともに、意思疎通支援者の確保やオンライン、デジタル技術等を活用した支援体制づくりに向けてはたらきかけを行っていく。					
障がい福祉サービス利用に必要な計画作成の支援を受けた人数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	172 人	182 人	190 人	202 人	233 人	236 人
取組内容と取組結果(R7)	利用者は増加し計画作成を行う相談支援事業所も人材不足の中ではあるが、計画作成を行うことができた。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	利用者増加となっているが、十分な支援を満たす適切な期間でのモニタリングを含めた計画作成を行なうことが必要である。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	引き続き、利用者への十分な支援ができるように計画相談を行う相談支援事業所と連携し、事業の継続を行っていく。					

■市民アンケート結果

高齢者・障がい者福祉の充実	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
	78.9%	80.1%	25.3%	25.7%

■前期計画からの主な見直し内容

- 施策の展開１について、成果指標を「障がい福祉サービス利用に必要な計画作成の支援を受けた人数」から「生活上で特に困っていることはない」と答えた人の割合」に変更。
- 施策の展開２について、施策の名称を「障がいのある人と共に暮らす共生社会の実現」から「権利擁護の推進」に変更するとともに、成果指標を「手話通訳者・要約筆記者派遣人数」から「手話奉仕員の登録者数」に変更。

施策 2 - 6 地域福祉の充実

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 高齢者や障がい者、子育て世帯など、誰もが地域で安心していきいきとした生活を送ることができるよう、お互いを尊重し思いやり、地域全体で支え合う地域包括ケアシステムの構築を推進します。

<現状と課題>

- 子どもの頃から福祉に触れ、様々な体験や交流等を通じて福祉の心を培うことが重要であることから、企業や集落のほか、小・中学生及び高校生を対象にふくボラ出前塾を実施し、高齢者疑似体験や車イス体験等のプログラムを実施しています。少子高齢化や人口減少による過疎化・世帯の単身化が急速に進み地域住民同士の社会的つながりが希薄化している中、地域での支え合いが重要となってくることから、地域や学校などでの福祉教育を推進します。
- 生活困窮者に対して包括的な支援を提供しています。新規相談件数は、コロナ禍をピークに減少してきており、令和 7 年度は 156 件となっています。しかし、継続的な支援が必要なケースが見られ、より丁寧な対応が求められています。また、相談に来ることができない困窮者に対しても、適切に自立相談支援につなげていく必要があります。
- 生きがい・健康づくり及び社会参加を図るとともに、日中孤立しがちな高齢者の閉じこもりを予防することを目的に住民が気軽に集える居場所づくりの支援を行い、地域住民同士のつながりを深める必要があります。各地区で行われる地域の居場所づくりなどの活動については、スタッフの高齢化などにより、休止や解散するところもあるため、各地区での活動が継続できるよう定期的な声掛けや研修会の実施などに取り組むほか、常設型の居場所づくりも推進します。
- 社会福祉協議会では、地域福祉活動の支援やボランティア活動の推進、生活支援など様々な事業を実施していますが、地域福祉活動の担い手不足や高齢化が課題となっています。そのため、地域住民や関係機関が連携し、誰もが安心して暮らせる地域づくりと地域包括ケアシステムの充実が必要です。

<関連計画等>

- 第 3 次佐渡市地域福祉計画・地域福祉活動計画

< 施策の展開 >

1. 福祉教育の充実

主な取り組み	■市内の小中学校や高等学校を対象とした福祉教育の推進を図ります。 ■夏休みのボランティア体験プログラムの実施を推進します。 ■企業や集落等を対象に社会福祉関係者や地域住民の協働による福祉ボランティア出前塾を実施し、福祉の心を育みます。 ■誰もが認知症について正しい知識をもち、偏見をもたず、認知症の方や家族を支える「応援者」をひとりでも多く増やすことによって、認知症の方が安心して暮らし続けられる地域づくりを推進します。		
主な事業	福祉教育事業（ふくボラ出前塾）、ボランティア体験事業、認知症サポーター養成講座		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	人口に占めるボランティア登録者数の割合	1.1%	1.5%

2. 支え合い意識の高揚・相談支援の充実

主な取り組み	■生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を配置し、関係機関や住民ボランティア等と協働しながら住民主体の支え合い助け合い活動を創出します。		
主な事業	地域支え合い活動の実施（生活支援コーディネーターの活動）、地域福祉懇談会の実施、困窮者支援（生活困窮者自立支援事業）		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	悩みや不安の相談先がある人の割合	88.7%	91.6%

3. 誰もが集える場所・機会づくり

主な取り組み	■誰もが気軽に集い、自分たちが住む地域について話し合う機会をつくれます。 ■「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」を配置し、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の促進を図ります。 ■誰もが集える常設の通いの場を設置することで、「地域づくり」、「地域での支えあい」を推進します。		
主な事業	地域の居場所づくり事業の推進、地域子育て支援センター事業		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	高齢者が地域の居場所づくり（地域の茶の間等）の参加した割合（参加者数/65歳以上人口）	68.1%	76.6%
	常設の居場所の設置数	1 か所	4 か所

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行政
■誰もが集える居場所に積極的に参加し、さまざまな世代の人たちと交流しましょう。 ■日頃から隣近所との関わりをもち、互いに助け合えるような信頼関係をつくりましょう。 ■趣味や特技などを共に楽しむ者同士での集まりをもつようにしましょう。	■福祉施設の地域への開放や交流を通じて、ボランティアや体験学習の受け入れに協力しましょう。 ■身近な福祉活動に事業所ぐるみで積極的に取り組みましょう。 ■サービス利用者や地域住民と一緒に楽しめる行事を企画・開催しましょう。	■子どもから高齢者、障がい者まで誰もが集うことのできる常設型の「ごちゃまぜの居場所づくり」を推進します。 ■学校における福祉教育を推進し、子どもの頃から福祉に関する意識の向上を図ります。 ■地域にある様々な資源を見直し、住民の主体的な支え合い活動の発掘、創出、担い手育成等を支援します。 ■市民の交流情報などを広報誌やホームページ等で広く伝え、交流を促進します。

【参考情報】 施策 2-6 地域福祉の充実

■ 前期計画 KPI

出前塾の受講者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	388 人	450 人	320 人	318 人	467 人	640 人
取組内容と取組結果(R7)	ふくボラ出前塾として福祉教育を実施した。(数値は学生のみ) 連続講座として多くの学校が取組みを行い、単発的な講座になることなく、高齢者施設への訪問や成果の発表につながっている。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	受講者数については、実施学校数の増加、学校単位での取り組みの増加があり、大幅な増加につながっている。併せて、実施回数についても増加している。市内全域での取り組みにつながるよう、未実施校への働きかけが必要である。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	講座申し込み時の打合せで、講座を実施する主旨をお伝えしながら、連続講座につながるよう提案を行い、より理解が深められるよう働きかけていく。未実施校と連携を図りながら、実施につなげるよう働きかけを行っていく。					
生活困窮者の新規相談受付件数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	275 件	200 件	235 件	196 件	155 件	156 件
取組内容と取組結果(R7)	新規相談受付件数、自立プランの作成件数ともに前年度並みとなっており、一人ひとりの状況に合わせた具体的な支援プランを作成し、寄り添いながら自立に向けた支援を行った					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	新規相談件数が令和 4 年度以降は減少傾向となっているものの、国が設定する K P I (人口規模が 4 万人以上～5 万人未満の自治体は年間 132 件) は上回っており、支援を着実に進めている。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	生活全般の困りごとに対して、どのような支援が必要かを相談者と一緒に考え、一人ひとりの状況に合わせた具体的な支援プランを作成し、寄り添いながら自立に向けた支援を行う。					
地域の居場所づくり (地域の茶の間等) の参加者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	8,543 人	18,000 人	10,009 人	11,030 人	12,761 人	13,782 人
取組内容と取組結果(R7)	移動支援からの地域の居場所についても定着してきており、参加数の増加につながっている。既存のサロンについては、世代交代が難しく高齢化が進んでいるが、継続に向けての支援を行った。地域食堂 (子ども食堂) の実施についても、広報活動や助成金の提案等支援を行った。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	参加者の減少、高齢化によりサロンを解散する団体も見られたが、継続に向けての支援を行った。 地域食堂 (子ども食堂) については、開催していることの認知度が高まるにつれて参加者の増加がみられた。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	既存のサロンについては、実施内容の提案や参加者募集の支援を行いながら、継続に向けてともに取り組んでいく。移動販売からの地域の居場所へのつながりも引き続き行っていく。小地域サロンだけでなく趣味のサロン等、新しい形の集りについても実施していけるよう働きかけを行っていく。					

■市民アンケート結果

	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
高齢者・障がい者福祉の充実	78.9%	80.1%	25.3%	25.7%
教育・子育て支援の充実	75.3%	71.5%	24.7%	24.7%

■前期計画からの主な見直し内容

- 施策の展開１について、主な取組を追記し、成果指標を「出前塾の受講者数」から「人口に占めるボランティア登録者数の割合」に変更。
- 施策の展開２について、成果指標を「生活困窮者の新規相談受付件数」から「悩みや不安の相談先がある人の割合」に変更。
- 施策の展開３について、「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」や常設の通いの場に関する記載を追記し、成果指標を「地域の居場所づくり（地域の茶の間等）の参加者数」から高齢者が参加した割合に変更。また、成果指標に「常設の居場所の設置数」を新たに追加。